平成31年 2月

木村隆誉　学位論文審査要旨

主　査　　藤　井　進　也
副主査　　藤　原　義　之
同　　本　間　正　人

主論文

Non-surgical management of bile leakage after hepatectomy: a single-center study
（肝切除後の胆汁漏出に対する非外科的管理：単一施設研究）
（著者：木村隆誉、河合剛、大内泰文、矢田晋作、足立憲、武田洋平、八島一夫、
本城総一郎、徳安成郎、小川敏英）
平成30年　Yonago Acta Medica　61巻　213頁～219頁

参考論文

1. Amplatzer vascular plug4を用いた動脈塞栓術後に再開通を認めた外傷性腎損傷の1例
（著者：木村隆誉、大内泰文、矢田晋作、遠藤雅之、松本顕佑、小谷美香、小川敏英）
平成29年　臨床放射線　62巻　483頁～488頁

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は肝切除術後の胆汁漏に対する非外科的管理について胆汁漏を中枢型と末梢型の2つのカテゴリーに分類し、それぞれに対する非外科的治療の有用性を後方視的に検討したものである。その結果、経皮的胆汁漏ドレナージ、内視鏡的経鼻胆道ドレナージ、経皮経肝的胆管ドレナージにランデブー法を組み合わせた我々の非外科的治療戦略により、治療難渋例についても高侵襲な再手術を避けることができた。また本研究の治癒率ならびに平均ドレナージ治療期間についても従来の報告と同等の結果であり、著者らの非外科的治療戦略は低侵襲、効果的かつ安全であると考える。本論文の内容は、肝臓外科およびIVRの分野で、肝切除術後の胆汁漏に対する非外科的治療戦略の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。